

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892100047		
法人名	株式会社 長生		
事業所名	グループホーム生き生き		
所在地	兵庫県高砂市米田町古新308-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	2016年 1月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hyogo-kai.go.com/">http://www.hyogo-kai.go.com/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2015年 10月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様とご家族がコミュニケーションの場を年間行事の中に取り入れ思い出作りやつながりを持ち続けていけるよう努める。又、地域の方々との交流を持つことにも努めている。自立支援に向けて残在機能の活用、排泄、食事についてもご自分で意欲が持てるよう個々のケアに取り組む支援をいしている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

かかりつけ医でもある医療機関が併設されており、24時間体制の医療連携が密にとれている。今年に入り4人の看取りの経験をしている。重度化した場合も、家族の思いに添った手厚い支援が行えるよう管理者は、職員を育成し「優しい思い」を忘れないよう心がけている。地域の行事などにも積極的に参加し、転倒防止の勉強会をするなど、運営推進会議を通じ家族や地域の人の意見を取り入れ、地域密着型の役割をはたして行きたいと考えている。家族と利用者、地域の人との交流を行いながら、四季折々のイベント、日々の外出がより積極的に行えるよう今後も工夫していきたいと考えている。子どもたちの来訪、交流を利用者は楽しみにしている。そのためにも、今後も地域に根差した居場所として、さらなる連携を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を元に全職員が優しい思いで実践する事を心がけている。	玄関や職員の目のつく所へ理念を掲げ、日々の生活の中で、利用者への態度、言葉づかい、優しさを忘れず安心して過ごしてもらえるよう、理念を唱和している。職員全員で共有し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の挨拶に加え、地域活動の参加、行事には声かけして交流している。	地域のお祭りやイベントにも積極的に参加し、子どもたちのトライやるウィークの受け入れもおこなっている。事業所での夏祭りに市長が来訪し、より良い交流がおこなえている。利用者が参加してのごみステーションの清掃などにも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで地域の人々の声を聞いたり、相談の場としても活かして認知症の方を理解していただくよう交流している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの内容関連が意見交換できる。学びを得たことをカンファレンスで検討し、実践につなげる。	地域の代表者、地域包括、家族が参加し、いろいろな事がオープンに話し合える場として活かされている。これから地域の人と防災訓練を一緒に行えるよう呼びかけたり、転倒防止、認知症について勉強会を行うなど検討していきたいと管理者は考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の情報交換を行う。介護保険課の担当者に話す機会も増えて、要望等を伝える。	地域包括、社協など協力的で情報交換や連携も密にとれている。グループホーム連絡会の立ち上げが出来ておらず地域のグループホームとの情報交換が取りにくいのが課題である。介護保険課と連携をはかり行っていきたいと管理者は考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が正しく理解してケアに取り組んでいる。	医師の指示のもと、転倒防止、夜間のみセンサーマット使用、自傷行為がある為つなぎ服使用の人がいる。家族とは書面での同意書を交わしている。玄関の施錠は時間を限って開けている。	玄関の施錠について、今後も継続して取り組んでいただきたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小さなあざでも報告し、原因を追及するよう指導している。	地域の勉強会などもあり参加している。職員がストレスをためないよう管理者が個別に話し合う機会を持っている。職員同士利用者の小さな変化も見逃す事が無いよう申し送りノートで情報を共有している。不適切な対応に気づいた時は職員同士その場で声掛けし合っている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様に近い身内の方がおられない場合、遠縁の方に制度及び利用方法を説明し支援している。職員は活用状況で学ぶ機会となっている。	以前には、運営推進会議で司法書士による研修会を行い、管理者が学び伝達研修などで職員に伝えたことがある。現在利用している人はいない。必要と思われる場合介護保険課に相談をしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、納得されるまで説明を行い、十分、ご理解してもらえるよう話すようにしている。	希望があれば家族と本人の体験見学後、納得を得たうえで十分な説明のもと契約に至っている。特に看取りや重度化した場合の同意書については家族の気持ちの変化に応じ、いつでも話し合いが出来るよう対応している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方が来所された際には、職員には家族とのつながりを持つように進め、色々なご意見を伺える雰囲気を作っている。出されたご意見は課題として改善に努めている。	決められた面会時間外でも来訪をオープンにし来訪の際、意見や要望を聞き運営に反映出来るよう努めている。以前ヒヤリハットに関しての質問、意見を受け、会議などで話し合い反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは個別に面談又会議等で意見や提案をくみ取れるよう働きかける。	日々の意見や提案は、申し送りノートなどに書き入れ管理者と個別に話すこともある。会議でも意見を出し合い反映している。職員が利用者より親近感を持てるよう敬老会で職員が劇を行い、お寿司の出前もあわせて好評であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けやすい時間の配慮を行っている。内部研修も毎月行い、業務時間にも指導し、学ぶ機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2市2町のグループホーム勉強会に参加している。管理者会議ではサービスの質の向上について意見交換を行っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人も含め、必ず見学に来ていただくようにしている。入居希望の面接、説明を行い、安心した形で入所できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に話をうかがい、ご家族様の求める事、不安等をうかがい、入居後は密に連絡を取り合いご家族様が安心できるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様ご要望に応じて、優先度を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共に暮している環境作りを整えながら、コミュニケーションを常に作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に日頃の様子をお伝えして、ご家族様には都合のつく限り、来所していただけるよう声かけを行う。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの地域での日頃のつながりを大事にした支援に取り組むよう努めている。	利用者は家族の来訪を楽しみにしている為、家族に声掛けし、母の日のイベントで家族と一緒に行事食を食べ祝うイベントを行った。季節に応じ公園でお弁当を食べたりもしている。地域の方の協力で初詣に行ったりもした。今の馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事はフロアで全員で行う。会話がはずまれるよう声かけに心がける。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡を行っている。出来る限り、初盆にはお参りさせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人に合った生活ができるよう日々観察し、寄り添うことに心掛けている。	申し送りノートを活用し日々の小さな変化を観察している。言葉を発し難い人の思いも見逃さないようにしている。全職員が共有出来るよう日々の、表情昨日と今日との違いを読み取るようにしている。家族からの情報を聞きとり、職員同士で声掛けし合っている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にお話を聞き、又相談しながら、過去の生活環境、嗜好などの把握に努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活ペースを見出し、残存機能を出来る限り活かせるよう見守るケアに努める。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの意見の反映しながらケアプランを中心にした本人本位の計画となるよう介護計画を作成している。	来訪しにくい家族などは電話などで思いや要望を聞いている。医療関係者も交えカンファレンスを行い、全職員が関わり、利用者にとってより良い支援が行えるよう介護計画を作成している。モニタリングは全職員が意見を出し合い、介護計画に反映している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンス等で、意見交換の中で、日々の気づきに本人本位の個別ケアについて話し合った事を記録に残している。又実践にも活かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々合わせた個別ケアに取り組み柔軟な対応で取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会や青年団、保育園との交流が出来るよう機会を設けている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族の意向を伺い対応し、適切な対応が出来るよう、医師に報告・連絡、体調管理に努めている。	これまでのかかりつけ医の継続支援を前提としているが、現在、ほぼ隣接の協力医が主治医となり、職員が支援している。他科受診については、家族が付き添っている。協力医による健康管理の体制が整備され、職員、家族も含め、意思疎通が密に図られている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携をとり、情報交換を行い、相談できる体制を設けている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	有床診療所が隣接しており、本人の状態ですぐ早くホームに戻れるよう家族の意向を聞きながら、医師との話し合いをしている。又訪問看護師との連携も行っている。	家族の意向や利用者の状態を考慮し、入院回避に努めている。誤嚥による肺炎の場合は、早めの短期入院により早期での回復、退院につなげている。入院時は、職員が洗濯物等身の周りの世話や声かけをするなど、安心して治療できる環境を整えている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を聞き、本人にとって穏やかに最後を迎えられるよう医師・訪問看護と連携しながらケアを行っている。	契約時に事業所の方針を説明し、利用者、家族の意向について確認している。事業所と協力医との信頼関係が構築され、家族は、重度化から看取りに至るまで不安を感じることなく利用者に寄り添うことができている。管理者は、亡くなった利用者の初盆に参ることを継続しており、家族とのつながりも大切にしている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	落ち着いて行動ができるよう、マニュアルを作成し、時間がある時は常に目を通すように指導している。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練を行っている。地域の方に避難訓練に参加していただき日頃から協力体制を築いている。	同建物の併設サービスと合同で夜勤想定も含め、利用者も一緒に訓練をしている。運営推進会議でも議題にあげ、AEDや防災全般についての協力を働きかけている。地元の民生委員や青年団等との情報交換、協力もある。事業所での災害時の受け入れも想定している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に気をつかう対応、入居者様の声かけも配慮している。	入職時のオリエンテーションで職員に周知するとともに、普段の業務でも管理者がその場で注意している。職員には、常にお世話をさせていただいているという姿勢を忘れず、利用者と向き合うことを伝えている。理念を振り返る機会ともなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の自己表現しやすい環境、日常生活中での会話の中を一つ一つ受け入れる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人を尊重し、ペースを大切に日々の生活が穏やかに出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の様子から散髪の声かけをしたり、外出時には個別のおしゃれをしていただいたり、入居者様のお誕生日には特別に化粧をしたりする支援の声かけをおこなっている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やあとかたづけも一緒に行い、週1回行事メニューとして楽しみのもてる食事作りをしている。	食材を一括購入で配達してもらっている。その日の担当職員がメニューを考え調理している。下ごしらえや盛り付け、後片付け等利用者も一緒に携わっている。職員は、介助しながらも一緒に食事し、楽しく会話が弾んでいる。お誕生日や行事メニューなど普段と違う楽しみも設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人にあった工夫をしながら、食事量・水分・摂取量にも注意し体調管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様に応じた方法で口腔ケアを行い、うがいの出来ない方はお茶を飲む事により口腔内を清潔に保つようしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様が心地よい状態で自立に向けたケアを行う。日中は布パンツを使用しトイレ誘導に努める。	利用者の不快感を無くし、気持ち良く感じてもらうことを大事にしている。厚手の布パンツ等で過ごしてもらったり、トイレも居室にあることから、ゆっくり自分のペースでしてもらうことを心がけている。利用者の様子やしぐさから察知し、早めの声かけにより失敗を減らすようにしている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事前の運動、水分摂取を多くする工夫、個々の排便の管理等		
45		(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中ゆっくり入浴していただけるよう、希望やタイミングを計りながら、入浴の声かけを行っている。	概ね、週2～3回の入浴となっている。現在、拒否の強い人は無いが、無理強いせず、できるだけ同性介助で対応している。併設施設の大型風呂で温泉気分を味わったり、利用者の体にあつた石鹸類の使用、季節風呂など、個々の希望や楽しみにも配慮している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、様子をみながら、一人一人にあつた休息を行い、夜間安眠できるよう日中のコミュニケーションを大切にしている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能を理解し誤飲が無いよう確認を徹底する。入居者様の状態は常に医師に相談する。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩が好きな方は地域のゴミ拾いに参加、踊りが好きな方は盆踊りに参加、お料理の好きな方は食事の手伝い等に個々の楽しみを出せるよう支援している。		
49		(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で散歩や外出。ホームでは、気候にあわせて外出、外食も行う。個人的には訴えがあれば一緒に買い物に行くよう努めている。	個々の要望があれば、日用品やお菓子等の買物に行ったり、外食や季節の花を見にグループ毎に外出している。家族来訪時には、積極的に外出を促すなど、協力を働きかけている。今後、気候のいい時期の外出の機会をより多く持つよう、職員間で検討している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理がご本人でできるかどうかは判断している。数名の入居者様は、ご自分で管理されている外出した時に嗜好品など購入される。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があればその都度対応		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入れ替えを常に心がけ、清潔に過ごせるように清掃している。入居者様にとって出来るだけ心地よい配置をしている。	リビングで過ごす人が多いので、誰もが心地よく過ごせるよう、柔軟なテーブルや椅子の配置を心がけている。ソファや交流スペース等、個々に家族とも過ごせるスペースも用意し、空調にも配慮している。この冬には、3階フロアに炬燵を用意し、利用者の憩いの場にするを予定している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際にいつも利用されている物を持参していただき、入居者様が落ち着いて暮すように家族の方と常に話し合うようにしている。	洗面、トイレ、ベッドが常設されている。中には畳を敷いて、布団で生活している人、使い慣れたタンスやテーブル、椅子を持ちこんでいる人もいる。自分でこまめに整理整頓するなど、自分の住まいとして居心地良く暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットになれていない方は、床寝で対応。歩けない方は這って動き回れるよう工夫している。		